熱傷手当プロトコル

熱傷の内容聴取

・熱傷に至った機序（誤った、自損、加害、仕事中等）
・原因物質（熱湯、蒸気、油、薬品、電撃、雷撃、低温熱傷等）※1
・反応（意識）呼吸の確認

→ **反応（意識）がなければ心肺蘇生法プロトコルへ**

熱傷部位の確認

体幹・広範囲 → そのままの状態で待機させる

四肢・局所 → 冷却

冷却

・すみやかに水道の流水で、10分以上の冷却を行う
・衣服を着ている場合は、衣服ごと冷やす
・氷や氷水により長時間冷やすことは勧めない
・水泡（水ぶくれ）は破らないようにする

広範囲に冷えてしまう場合、低体温を防ぐため長時間の冷却は避ける

そのままの状態で待機させる

すでに冷却している場合、低体温を防ぐため長時間の冷却は避ける

・通報者が極度に焦燥し、冷静でない場合は、口頭指導を中止する。
※1原因物質により傷病者以外の人体に被害が及ぶ可能性、または原因物質が拡散する恐れがある場合は避難するよう指導する。

熱傷プロトコール

救急車はそちらへ向かっています！落ち着いて私の質問に答えて下さい！

反応（意識）はありますか？
肩を叩きながら呼びかけてみて下さい

いいえ →

ＣＰＲプロトコールへ
（意識障害がある場合は、気道熱傷、一酸化炭素中毒、心室細動も考慮する）

はい ↓

熱傷部位の確認
- どこをやけどしていますか？
- どれくらいの広さですか？
- 顔はやけどしていませんか？
  （顔をやけどしていれば、鼻毛が焦げていないか確認してください）

原因は？
どうしてやけどされたんですか？
（火、熱、化学薬品、電気等、原因を特定する）

化学薬品による熱傷の場合
- 原因物質の聴取を行うこと
- 応急処置を行う者には、必ず手袋、ゴーグルを着用させること
- ２次災害が発生する危険性が高い場合には、現場からの避難指示を行うこと

感電（電撃症）の場合
- 必ず電源の遮断を最優先すること

熱湯など高温なものでやけど
- **局部の熱傷**
  痛みが取れるまで水道水で冷やしてください
- **全身又は広範囲の熱傷**
  やけどの部分をきれいなバスタ オルで覆って、その上から水道水をかけてください
  全身を冷やす場合、１０分以上の冷却は避けてください

↓

- 衣服は脱がさないで下さい
- 水ぶくれを破らないようにそっとガーゼなどで覆ってください

化学薬品によるやけど
- 化学薬品が着いた衣類や靴などはすべて早く脱がしてください
- 体に付いた薬品を水で流してください

目に入った場合
- 痛がりますけど、目を開けさせて水で洗ってください

感電によるやけど
- 速やかに安全な方法で熱源から隔離すること
- 痛みが取れるまで水道水で冷やしてください

↓

- 救急車が着くまで、意識と呼吸の状態をよく見ていてください
- もし、呼吸が止まるようなことがあれば、人工呼吸と心臓マッサージの指導をしますので、もう一度119番通報をしてください

参考１－４

熱傷手当

熱傷に関する内容の聴取

通報者が極度に焦燥し冷静さを失っていること等により対応できない場合は口頭指導を中止する

熱傷部位の確認

四肢若しくは局所の場合

冷　却

・すみやかに水道の流水で 10 分以上の冷却を行う
・衣服を着ている場合は、衣服ごと冷やす
・氷や氷水により長時間冷やすことは勧めない
・水疱（水ぶくれ）は破らないようにする

広範囲が冷えてしまう場合、低体温を防ぐため長時間の冷却は避ける

体幹若しくは広範囲の場合

そのままの状態で待機させる

すでに冷却している場合、低体温を防ぐため長時間の冷却は避ける